

令和6年度
泉佐野市立児童発達支援センター
事業所における自己評価総括表

令和7年4月

泉佐野市立児童発達支援センター
児童発達支援「木馬園」
泉佐野市子育て支援課

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	泉佐野市立児童発達支援センター			
○保護者評価実施期間	令和7年2月12日		～	令和7年2月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	45	(回答者数)	23
○従業者評価実施期間	令和7年2月12日		～	令和7年2月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	44	(回答者数)	32
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月3日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	地域の中核的役割を果たす機関として理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護職員、心理担当職員、保育士、児童指導員の全ての職種を配置し、様々な視点から児童の成長を考えていくことができています。	専門職同士で集まり深く話していく機会や他職種同士が集まり横の連携をとっていく機会を頻回にもつ中で、児童理解が深まり、よりよい療育につなげられるように意識しています。	会議の時間や回数について、職務内でより充実したものにしていけるよう、内容や出席する職員を年度ごとに再考していきます。
2	親子保育や子育て教室、スイミング、各行事や参観日、懇談、個別計画の共有など、保護者とともに児童の成長を考えていく機会を頻回に作っています。	保護者と話す際には、専門用語をそのまま伝えるのではなく、保護者にとってわかりやすい言葉を選ぶようにするとともに、場の雰囲気も保護者が安心して自分の思いを話し、児童のことを考えていけるようなものとなるよう、意識しています。	職員によって話す内容の方向性が違うものとならないよう、日々の職員間共有を丁寧に行っていきます。
3	地域の障害児通所支援事業所に対して、地域の状況、地域で望まれている支援内容の把握、事業所との相互理解・信頼関係の構築を進めている。また、保育所等訪問支援により、障害のあるこどもの育ちの支援に協力し、支援力の向上を図っています。	地域の障害児通所支援事業所に対して、事業所との相互理解・信頼関係の構築のため、様々な研修会等の事業を企画、実施しています。保育所等訪問支援の他、保育所等への併行通園を実施しています。	事業所向けの研修・事例検討会等の開催を開催するとともに近隣の児童発達支援センターとの連絡会の開催を通し、情報共有するとともに、地域の事業所の支援の質を高めていくよう事業に取り組みます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門職が多く配置されている分、スムーズな連携とならなかつたり、責任の所在が分かりにくくなったりすることがあります。	煩雑な職務の中での伝え忘れや、度々の内容の変更に伴う伝達もれ、雑談の中での決定などが考えられます。	職務の整理をしていく中で、一つ一つの連携を丁寧に行っていけるようにするとともに、各会議の終わりに要点を確認するなど、職員一人ひとりが連携することを意識していけるような見直しを行っていくよう努めます。
2	施設の老朽化により、見た目の古さや空調の効きにくさ、スムーズな動線の組みにくさなどがあります。	施設の老朽化が原因と考えられます。	元幼稚園施設であったため、バリアフリー化はされておらず老朽化もありますが、清掃や整理整頓を意識して行っていくこと、また、訓練士の助言による個々に合った環境整備も行い、少しでも利用者が気持ちよく施設で過ごしてもらえるように引き続き工夫していきます。 また、令和8～9年度に施設の移改築を予定しており、利用者の意見を参考に施設整備に努めて参ります。
3			